

みどりの塔異聞

昭和 16(1941)年紀元二千六百年記念塔除幕式(須磨浦公園)
→戦後、「みどりの塔=平和の塔」の謎(当初(S29.4)はコン
クリートモルタル造、後にブロンズ像となり、現在に至る)

須磨浦公園に奇妙な塔がこのときの<八紘一字の塔>だ。現
在の「みどりの塔=平和の塔」と呼ばれているが、かつては
「^{あめつちのもとほしら}八紘之基柱」が正式名称だが、一般には「八紘一字の塔」と
呼ばれ、ここに高い柱のような塔があったという。「^{はっこういちぢう}八紘一字
とは、「日本書紀」の<^{くにのうち}六合を兼ねて都を開き、^{あめのした おほ}八紘を掩ひて
^{いへ}宇にせむこと、^よ亦可からずや>から出典。本来の意味は<世界
を一つの家とする>という確かに平和思想の意味だが……太
平洋戦争のとき、日本の海外進出を正当化するための標語とし
て使われた。現在はその台座を利用して、新谷秀雄(後に秀夫)
『薫風』と題する女神像に変わっている。塔の背後に神武天皇
の東征や富士山のレリーフが残り、コンクリートで塗り籠められ

ていたが剥落した碑文(神武天皇檀原ニ建国元肇ノ大典ヲ行ヒ給ヒ吾等カ遠祖亦ソノ禮ニ侍シテ威儀ニ
備ハル神獸皇皇タリ勅シテ^{のたま}宣ハク八紘ヲ一字トシ……判読不能)もある。また、台座には大東亜共栄圏
を示す地球儀や伊勢神宮や檀原神宮や皇居を遙拝する方位板もある。

妹尾河童『少年H』上巻「紀元二千六百年」には、少年Hが神戸沖に軍艦が集結している様子な
どから、昭和 15(1940)年 11 月 10 日の『紀元二千六百年記念・奉祝式典』に向かって世間が動いて
いることを実感するシーンが描かれている。そして昭和 15 年 2 月 11 日の紀元節に、軍艦からの祝
砲が鳴った。少年Hは家近くの電车道(現・国道 2 号)を馬車が御影石を積んで西へ行くのを目撃
する。興味を持ったのでついていくと、須磨浦公園に辿り着いた。そして馬車の小父さんは言った。
<「この石はなあ、紀元二千六百年を記念した塔を建てる材料の石や。御影から運んできたんやけ
ど、もうすぐここにデッカイ塔が建つぞ」と教えてくれた。>



▲みどりの塔 ▼神武東征のレリーフ

